

修士論文（要旨）
2013年1月

共感性と自己意識・他者意識の関連の検討
—臨床心理士を目指す大学院生を対象に—

指導教員 中村 延江教授

心理学研究科
臨床心理学専攻
211J4004
内 将治

目次

序論	1
第1部 先行研究	2
1. 共感性について	2
1) 共感性とは	2
① 一般的意味での共感	2
② 同情と共感	2
③ Davis の組織化モデル	3
2) 心理臨床における共感性の定義	6
① 心理臨床における共感	6
② 自他の区別	7
③ 感情の種類	8
④ ここまでのまとめ	9
3) 共感性の形成要因	9
① 性格・気質と共感性の関係	9
② 内的作業モデルと共感性の関係	10
③ 家族・友人関係との関連	11
④ まとめ	11
2. 自己意識について	12
1) 自己意識とは	12
2) 自己意識と共感性の関係	13
3. 他者意識について	14
1) 他者意識とは	14
2) 他者意識と共感性	15
4. 全体のまとめ	16
第2部 本研究	17
1. 意義	17
2. 目的	17
1) 臨床心理士を目指す大学院生と一般の大学生の共感性の比較	17
2) 性別・年齢による共感性の違い	17
3) 共感性と自己意識・他者意識との関連	17
4) 肯定的感情に対する共感と否定的感情に対する共感に分けた上での検討	17
3. 方法	17
1) 調査対象者	17
2) 調査期間	17
3) 手続き	17
4) 調査内容	18
① 共感性：共感経験尺度（橋本，2005）	18

②自己意識：自意識尺度（菅原，1984）	18
③他者意識「他者意識尺度；辻，1993」	19
5) 分析方法.....	19
6) 倫理的配慮	19
4. 結果.....	20
1) 共感性の平均値の比較.....	20
2) 性別・年齢による共感性の違い	21
3) 共感性と自己意識・他者意識の相関分析	22
5. 考察.....	23
1) 臨床心理士を目指す大学院生と一般の大学生の共感性の比較.....	23
2) 年齢・性別と共感性の関係	23
3) 相関分析から見る共感性と自己意識・他者意識との関連.....	24
6. 総合考察.....	27

総論

引用文献

参考文献

（資料1）質問紙

（資料2）修士論文のためのアンケート調査へのご協力のお願ひ

謝辞

1. 問題と目的

心理臨床の職域で働く臨床心理士にとって共感は重要な概念であると考えられている。氏原(1974)はカウンセラーの武器は共感能力であると述べている。すなわち、臨床心理士やそれを目指す者の共感性について研究することは臨床心理士の専門性向上や、成熟に寄与する研究として重要であると考えられる。しかしながら、臨床心理士やそれを志望する学生を対象とした実証的な共感性研究はまだ少ないのが現状であり、更なる知見の蓄積が急務であると考えられる。

ここで共感性と関連する諸要因について検討した研究を見ると、自己意識や他者意識との関連を検討した研究が挙げられる。しかしながら、これらの研究で対象となっているのは、一般的な大学生である。さらに、ここでは感情の種類として肯定的感情や否定的感情を分類することなく扱っており、他者の肯定的感情に対する共感と、否定的感情に対する共感では、自己意識・他者意識との関連に違いが見られる可能性がある。したがって肯定的、否定的感情に対する共感を弁別した上で自己意識・他者意識との関連を検討する必要があると考えられる。

また、これまでの研究から、一般の大学生を対象とした場合、共感性には男女差があることも指摘されており、臨床心理士を対象とした場合にも、同様に差が生じる可能性が考えられる。

そこで、本研究では臨床心理士を目指す大学院生の共感性は、一般の大学生と比較した場合、どのような違いがあるのかを検討する事を第1の目的とする。

臨床心理士を目指す大学院生の共感性は性別、年齢によって異なるのかについて検討する事を第2の目的とする。

また、臨床心理士を目指す大学院生の共感性形成要因について検討するため、特に自己意識、他者意識に注目し、自己意識、他者意識と共感性の関連を調べることを第3の目的とする。

さらに、肯定的感情に対する共感と否定的感情に対する共感とは異なった現象であると考え、両者では自己意識、及び他者意識との関連に違いが見られるのかを検討することを第4の目的とする。

2. 方法

首都圏の大学院に在籍し、臨床心理士を目指す大学院生 88 名を学年問わず、対象とした質問紙調査を実施した(ただし、大学院に入学したばかりの大学院生は対象とせず、入学後半年以上経過していることを条件とした)。そのうち、有効回答数である 86 名を分析対象とした。

質問紙の構成は①フェースシート、②共感経験尺度(橋本, 2005)、③自己意識尺度(菅原, 1984)、④他者意識尺度(辻, 1993)である。

3. 結果

まず、臨床心理士を目指す大学院生の共感性は一般の大学生と比較して、どのような違いがあるのかを検討するため、共感性の各下位尺度得点の平均値、標準偏差を算出した。次に橋本(2005)において得られた大学生の共感性の各下位尺度得点の平均値との差は有意であるか検討するため t 検定を行ったところ、肯定感情共有不全と否定感情共有不全において、1%水準で有意な差が見られた。

次に、対象の性別、年齢の高低を独立変数、共感性の各下位尺度得点を従属変数とした 2 要因分散分析を行なった結果、肯定感情共有において、5%水準で性別のみに有意な主効果が認

められた。

さらに、臨床心理士を目指す大学院生の共感性が自己意識、他者意識とどの程度関連があるかを調べるために、共感経験尺度の各下位尺度得点と自己意識、他者意識の各下位尺度得点の相関係数を算出した。その結果、肯定感情共有と公的自己意識、私的自己意識、内的他者意識、空想的他者意識の間に弱い正の相関が見られた。また、否定感情共有と公的自己意識、私的自己意識、外的他者意識、空想的他者意識の間に弱い正の相関が見られた。

4、考察

t 検定の結果、臨床心理士を目指す大学院生は大学生よりも他者と肯定的感情や否定的感情を共有できなかったという経験を多くしている、または多く認識しているということが分かった。これは、臨床心理士を目指すことになったきっかけや、心理臨床について学び、共感に対する考え方が変化したため生じている差であると考えられた。

分散分析の結果から、共感性の形成要因の1つとして、性差が関わっている可能性が示唆され、生物学的、あるいは社会的な性が共感性の形成に影響している可能性が示唆された。ただし、年齢差については関連は見出されず、これが年齢の偏りによって生じたものなのか、本当に有意な差が見られなかったのかについてははっきりとは分からず、これについては今後の課題であると言えるだろう。

さらに、相関分析の結果から、自己意識・他者意識と他者との感情の共有経験には正の相関があり、自己意識・他者意識が情動的な共感性の形成に関わっている可能性が考えられた。

引用文献

- 明田芳久(1998). 共感性測定の試み 日本社会心理学会第 39 回大会発表論文集 302-303.
- 明田芳久(1999). 共感性の枠組みと測度: Davis の共感組織モデルと多次元共感性尺度 (IRI-J)の予備的検討 上智大学心理学年報,23,19-23.
- 有光興記(2006). 罪悪感, 羞恥心と共感性の関係 心理学研究,77(2),97-104.
- Davis,M.H(1983). Measuring individual differences in empathy:Evidence for a multidimensional approach. Journal of Personality and Social Psychology,44,113-126.
- Davis,M.H.,&Franzoi,S.L. (1991). Stability and change in adolescent self-consciousness and empathy. Journal of Research in Personality,25,70-87.
- Davis,M.H(1994). Empathy:A Social Psychological Approach.Westview Press 菊池章夫 訳, 1999 共感の社会心理学 川島書店, p1-25.
- 遠藤順子・菅原真優美(2004). 看護学生の自己意識・自己評価と共感性の関連 新潟青陵大学紀要 4, 171-186.
- 藤吉貴子・田中奈緒子(2006). 青年と成人における共感性と罪悪感の差異 和女子大学生生活心理研究所紀要 9, 99-105.
- 福島 円(2010). 犯罪被害者を支援する人の共感疲労と共感性—質問紙調査を通して—日本女子大学大学院人間社会研究科紀要 16, 85-99.
- 橋本 巖・角田 豊(1992). 感情の「わかりにくさ」に関する信念と青年の孤独感・共感性の関係 (II) 愛媛大学教育学部紀要 39(1),63-74.
- 橋本秀美(2003). カウンセラー評定の共感性とクライアントの自己評定の共感性との関連—臨床場面における共感性と共感性尺度の関係— 夙川学院短期大学研究紀要 27, 1-8, 2003.
- 橋本秀美(2005). 肯定・否定感情に着目した共感性尺度の開発 心理臨床学研究,22(6),637-647.
- 橋本秀美・塩見邦雄(2000). 共感性と性格要因との関連について: 共感性の研究(2) 日本教育心理学会総会発表論文集 (42), 244.
- Hoffman,M.L.(1975). Developmental synthesis of affect and cognition and its implications for altruistic motivation. Developmental Psychology,11,607-622.
- 梶田栄一(1988). 自己意識の心理学 東京大学出版会, 32-35,161-201.
- 角田 豊(1992). 共感経験尺度(EES)の妥当性: VTR を刺激とした感情内容別検討 教育心理学研究 40(2), 178-184.
- 角田 豊(1994). 共感経験尺度改訂版(EESR)の作成と共感性の類型化の試み 教育心理学研究,42(2),193-200.
- 角田 豊(1998). 共感体験とカウンセリング 福村出版 p11-27.
- 角田 豊(2004). 共感. 氏原 寛・亀口憲治・成田善弘・東山紘久・山中康裕(共編)心理臨床大辞典 培風館, p.211.
- 葛西真記子, 万木歩美(2006). 共感性と感情覚知の関連性についての研究 鳴門教育大学研究紀要 21, 55-67, 2006.
- 加藤隆勝・高木秀明(1980). 青年期における情動的共感性の特質 筑波大学心理学研究 2,33-42.
- 菊池文音・大坊郁夫(2009). 家族・友人関係と多次元的共感性との関連 日本パーソナリティ心

- 心理学大会発表論文集 (18), 176-177.
- 小玉陽士(2008). 親の養育態度が高校生の共感性に及ぼす影響(発達) 日本教育心理学会総会発表論文集 (50), 308.
- 小嶋佳子(2007). 感情経験の違いが自己意識・他者意識に与える影響 日本教育心理学会総会発表論文集 (49), 653.
- 小嶋佳子(2008). 感情経験と自己意識・他者意識の関係--感情の種類による違い 愛知教育大学研究報告, 教育科学 57, 83-90.
- 今野仁博・小川俊樹(2012). 認知的共感性と成人愛着の関連について: 愛着回避に着目して 筑波大学心理学研究 (43), 97-107.
- 小坂浩嗣・田中 雄三(2001). 「理解する」観点からの共感の再検討 鳴門教育大学研究紀要 16, 75-83.
- 松澤正子(2011). 母親についての被共感イメージの検討-内的作業モデルと共感性との関連- 昭和女子大学生活心理研究所紀要 13, 109-120.
- 三原 亘(1998). 共感性尺度の認知的側面に関する一研究 性格心理学研究 6(2), 152-153.
- 本村 汎・高桑有花(2003). 親子の関係と共感性と自己実現の研究 -大学生の認知データを素材にして- 梅花女子大学文学部紀要 人間福祉編 37(6), 67-86, 2003.
- 中西信男(1996). コフォートの心理療法-自己心理学的精神分析の理論と技法- ナカニシヤ出版, 72-88.
- 新村 出(編)(2005). 広辞苑第5版 岩波書房 p.690.
- 奥平裕美・木村正孝・古曳牧人・高橋 哲・栗栖素子・徳山孝之・井部文哉(2004). 共感性と他者意識に関する研究 中央研究所紀要,15,203-218.
- 大山智子・三浦香苗(2003). 中学生における共感性と感情経験との関連 生活心理研究所紀要 6,36-42.
- 龍 祐吉・小川内哲生(2003). 女子大学生の内的作業モデルと共感性及び向社会的行動との関係 日本教育心理学会総会発表論文集 (45), 7.
- 桜井茂男(1988). 大学生における共感と援助行動の関係-多次元共感測定尺度を用いて- 奈良教育大学紀要 37(1),149-153.
- 佐治守夫・飯長喜一郎(2011). ロジャーズクライアント中心療法 有斐閣, p32-59, 81-91, 139-149.
- 桜井茂男・葉山大地・鈴木高志・倉住友恵・澤田匡人・首藤敏元(2010). 新しい共感性研究: ポジティブな共感的感情反応に注目して 日本教育心理学会総会発表論文集 52,168-169.
- 佐藤宣子・村中寿江・間山康子(2007). 臨床看護師の共感性に影響を与える要因の検討-仕事ストレスとの関連を中心に- 看護総合 38,69-71.
- 澤田瑞也(1992). 共感の心理学 世界思想社, p9-14, 22-36.
- 澤田瑞也(1998). カウンセリングと共感 世界思想社, p13-15.
- 澤田瑞也・齋藤誠一(1995). 共感性の多次元尺度作成の試み 日本教育心理学会総会発表論文集 (37), 71.
- 澤田瑞也・齋藤誠一(1996). 共感性の多次元尺度作成の試み(2) 日本教育心理学会総会発表論文集 (38), 68.
- 澤田瑞也・山口昌澄・鈴木求実子・島津由美・喜納歩美(2001). 共感性と自己の感情に対する態度との関係(1) 神戸大学発達科学部研究紀要 9(1), 1-8.

- 敷島千鶴・平石 界・山形伸二・安藤寿康(2011)共感性形成要因の検討：遺伝-環境交互作用モデルを用いて 社会心理学研究 26(3), 188-201.
- Smith,A.(1759/1976). The theory of moral sentiments. Oxford:clarendon Press.
- Stotland,E.(1969). Exploratory investigations of empathy. InL.Berkowitz(Ed.),Advances in experimental social psychology(Vol.4),271-314.NewYork:academic Press.
- 杉山智春(2009). 看護学生の家族関係と共感性および自尊感情との関連について 母性衛生 49(4),484-491.
- 菅原健介(1984). 自意識尺度(self-consciousness scale)日本語版作成の試み 心理学研究,55,184-188.
- 鈴木有美・木野和代(2003). 青年期における共感性 I：多次元共感性尺度の作成と信頼性・妥当性検討 日本教育心理学会総会発表論文集 (45), 377.
- 鈴木有美・木野和代(2008). 多次元共感性尺度(MES)の作成：自己指向・他者指向の弁別に焦点を当てて 教育心理学研究 56(4), 487-497.
- 鈴木有美・木野和代・出口智子・遠山孝司・出口拓彦・伊田勝憲・大谷福子・谷口ゆき・野田勝子(2000). 多次元共感性尺度作成の試み 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 47, 269-279.
- 谷 伊織・天谷祐子(2009). 性格特性の 5 因子と共感性および孤独感の関連 日本パーソナリティ心理学会大会発表論文集 (18), 132-133.
- 手塚千恵子・古屋 健(2000).
- 登張真稲(2000). 多次元的視点に基づく共感性研究の展望 性格心理学研究 9(1),36-51.
- 登張真稲(2001). 中学生の共感性 日本教育心理学会総会発表論文集 (43), 213.
- 登張真稲(2003a). 多次元的共感性質問紙の妥当性の検討 日本性格心理学会大会発表論文集 (9), 20-21.
- 登張真稲(2003b). 青年期の共感性の発達：多次元的視点による検討 発達心理学研究 14(2), 136-148.
- 辻平治朗(1989). 他者の内面への関心、外面への関心、および空想的関心—他者意識概念の明確化とその測定— 甲南女子大学人間科学年報,14(別冊),117-126.
- 辻平治朗(1993). 自己意識と他者意識 北大路書房, p55-58, p78-80, p149-163.
- 氏原 寛(1974). 臨床心理学入門 創元社, p136-154.
- 山口正寛(2012). 青年期における内的作業モデルと共感性および怒りとの関連 心理臨床学研究 29(6), 717-727.
- 藤岡幸一・鎌田次郎・亀島信也(2008). 対人援助職にとって共感性と攻撃性は必要か 関西福祉科学大学紀要 11, 297-306.
- 八越 忍・新井邦二郎(2007). 母親の養育態度が小学生の社会的スキル,共感性,学級適応に及ぼす影響 日本教育心理学会総会発表論文集 (49), 211.